

令和6年度 新潟市立臼井中学校 学校経営方針

【臼井地区で目指す子どもの姿】

自分・仲間・地域を愛し、目標に向かってチャレンジする臼井の子

【教育目標と目指す生徒の姿】

- 自ら考える生徒・・・自分が置かれている状況や目の前にある課題を把握し、「今何をすべきか？」をこれまで得た知識や経験等を総動員して考え、自分の進むべき方向を定め、そこに向かって努力できる生徒の姿
- 進んで行動する生徒・・・級友や地域の方々等、様々な人とかかわりながら協力し合い、進んで行動できる生徒の姿。そのかかわりの中で、自分とは違う考え方や価値観に触れ、これまでとは違った視点で物事を見たり、新しい考えをもつ。そのことが、自分の見方・考え方を広げ、深めることに繋がる
- 最後までやりぬく生徒・・・自分の個性や可能性を大切にしながら、様々なことに興味・関心をもち、自分の納得がいくまでとことん追究し、自分自身を成長させる姿。自分の強みと弱みをありのままに受け止め、自分の特性にぴったりと合ったものを見つけていくことができる

【重点的な取組】

1 確かな学力の向上

- 資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学びの実現」とそれを支える「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」による授業の質の向上
- 家庭・地域と連携を図る家庭学習習慣の確立

(1) すべての生徒が分かる授業づくりと確かな学力の育成のために

- ① ICT を積極的に利活用しながら、すべての生徒が自己表現（アウトプット）できる小集団での話し合い活動等を実践する
- ② 生徒自身が学びを想起し、次の学習課題に結び付ける「まとめ」「振り返り」を実践する
- ③ 小中一貫した取組から、当校区の子どもたちに適した「個別最適な学びと協働的な学び」の在り方を検討・実践する（小中の特別支援教育部と協働し、生徒の教育的ニーズに対応する）

(2) 家庭・地域と連携した家庭学習習慣の確立のために

- ① 家庭学習の方法を丁寧に指導したり、成果を確認したりしながら、家庭学習習慣の確立を支援する
- ② 家庭学習習慣確立のために、小中で連携しながら次の取組を行う
 - ・小中連携による家庭でのタイムマネジメント
 - ・当校区の家庭学習スタンダードの設定
- ③ 取組の内容・成果を学校運営協議会で共有し、地域との連携を図る

<評価項目と達成基準>

- 各教科の授業が分かると答える生徒が90%以上（R5実績 94.2%）
- 「学び合い・話し合い」の活動により、分からないことが分かるようになったと答える生徒が95%以上（R5実績 100%）
- 宿題以外にも自主的に家で勉強していますと答える生徒が90%以上（R5実績 82.1%）
- 「授業で自分の考え伝えている」と答える生徒が75%以上（R5実績 74.6%）

2 豊かな心の育成

- 「認め合い・助け合い・期待をかけ合い・高め合う」支持的風土の醸成
- すべての生徒が「なりたい自分の姿」を目指し、自分への自信（自己肯定感・自己有用感・自己効力感）を高めたり、自らの考えで行動できる生徒指導の実践
- いじめ・不登校の早期発見と適切な初期対応の充実
- 生徒自身が自らの健康を管理できる力の育成学校行事で生徒が参画する場面を意図的に設定し、生徒を前面に出した運営を行う。

- (1) 「認め合い・助け合い・期待をかけ合い・高め合う」支持的風土の醸成のために
- ① 生徒会活動等の自治的な活動を通して、活動の成果や個々の成長を互いに理解させながら、生徒の社会性を育む
 - ② 特別の教科「道徳」や日常の教育活動を通して、互いの個性を理解し、認め合い、支え合いながら、共に生きていこうとする能力や態度を育てる
- (2) すべての生徒が「なりたい自分の姿」を目指し、自分への自信（自己肯定感・自己有用感・自己効力感）を高めたり、自らの考えで行動できる生徒指導を実践するために
- ① 普段の生活において、自己を深く見つめたり、お互いの良さや特性を理解したり、相互に協働し合うことを通して、「なりたい自分に近づくためにはどんな行動をしていくべきか?」「よりよく生活するためには何をすべきか?」を、自ら考え・実践していく能力や態度を育てる。
 - ② 生徒会活動や学校行事への主体的な参加を促し、その取組や成果を生徒同士で共有することにより、自己有用感や自らの成長を実感させる。
 - ③ 地域と連携した体験活動やボランティア活動を通して、多くの地域人材と触れ合いながら、地域を愛する心や豊かな人間性の育成を図る
- (3) いじめ・不登校の未然防止・早期発見と適切な対応のさらなる充実のために
- ① 特別の教科「道徳」や日常の教育活動を通して、いじめ防止教育、情報モラル教育、SOS の出し方教育等の課題未然防止教育を実施する
 - ② 定期的なアンケート調査や丁寧な見取り等から生徒の小さな変化やサインを見逃さず、声掛けや相談・支援・指導を行いながら、課題の早期発見に結び付ける
 - ③ 運営委員会（生徒指導部会を含む）を毎週実施し、課題対応の方策審議及び対応後のケア等について、組織的に進めていく
- (4) 生徒自身が自らの健康を管理できる力を育成するために
- ① 生徒の体力や健康状態を把握し、保健体育や学校行事等の改善・充実に生かす
 - ② 保健体育や学校行事を通して、運動することの楽しさや必要性を実感させながら、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する
 - ③ 望ましい生活習慣を確立するために、小中で協働したタイムマネジメントの取組を保護者・地域と連携して行う
 - ④ 食育を通して、栄養バランスや朝食の果たす役割等を理解させながら、食生活を見直す指導を充実する

<評価項目と達成基準>

- 自分にはよいところがあると答える生徒が 85%以上 (R5 実績 82.1%)
- 友達の良いところを見つけたり、友達が落ち込んでいるとき、励ましていると答える生徒が 90%以上 (R5 実績 98.5%)
- 体を動かして遊んだり、運動・スポーツをしたりしていると答える生徒が 90%以上 (R5 実績 91.1%)
- 朝食では3つのグループの食品をバランスよく食べると答える生徒が 85%以上 (R5 実績 80.6%)

【臼井中学校職員として大切にしたいこと】

「環境が人を育てる ～ヒト、モノ、コトの繋がりを大切にする～」

ヒト 誰もが自分らしさを発揮できる、支持的風土を定着する

- ・丁寧な言葉遣いを教師の率先垂範から定着させる
- ・支援的リーダーシップを育成する

モノ みんなが気持ちよく過ごせる、教育環境を整備する

- ・教室や校地・校舎の環境整備と清掃指導を充実させる
- ・ICTをはじめとした教材・教具、教育支援ツールを効果的に活用する

コト 生徒が学校に来たくなる、魅力ある教育活動を展開する

- ・学校行事や生徒会活動を通して人間関係づくりと豊かな体験を実現する
- ・授業を通して生き方・学び方・関わり方を身に付けさせる

これからの社会をたくましく生き抜く力の育成をめざす

小泉龍司法相（R60222 刑務所の隠語廃止の記者会見にて）

「人間の心や精神は、言葉とつながっていますので、言葉がゆがんでいけば、考え方、気持ち、そういったものも意識も間違っていく、ゆがんでいく」

支援的リーダーシップ（サーバントリーダーシップ）

優れた傾聴スキル、共感力、自己認識力